

最新鋭の腹腔鏡システムを導入 デジタルハイビジョンで鮮明に

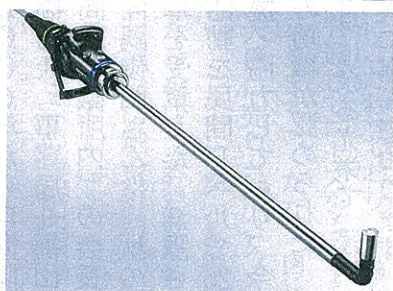
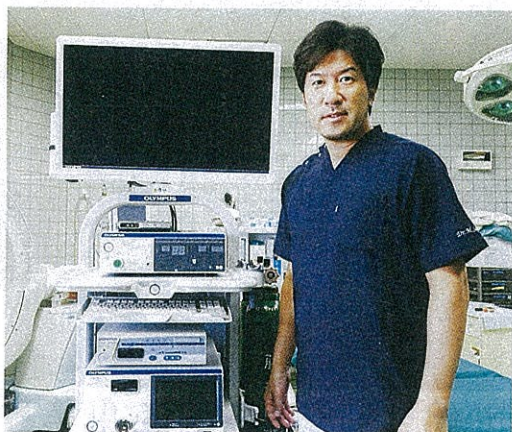
視野広く手術もより安全正確に

医療法人社団杉原会西福山病院（福山市松永町340-1、明崎満院長、電084・933・2110）は

このほど、最新デジタルハイビジョン腹腔鏡システム（先端フレキシブルデジタルスコープおよび専用高解像LCDモニター）を導入した。高精細HD画像により鮮明に微細な血管や組織が視認でき、腹腔鏡の最大

の利点である拡大視効果も高まり、より安全で正確な手術ができるようになった。

同システムはOLYMPUS社製「VISERA ELITE II」Ⅱ写真上Ⅱで、デジタルスコープ（同社製「END EYE FLEX」Ⅱ写真下）は4方向100度に屈曲し、開腹よりも広い視野を提供して、安全性に貢献する。脂肪や癒着が多い▽出血し易い▽炎症が高度▽腫瘍が大きい、などの条件下



でも完遂しやすくなったという。

「腹腔鏡手術」とは、0.5〜1cmほどの小さな穴を腹部に数か所開けてカメラを挿入し、モニターを見ながら手術を行う方法。傷が小さくてすむことで美容的に優れている上、痛みが軽いため術後の回復が早く、入院期間も短くて社会復帰が早くなるという。同院では胃がん、大腸がん、胆石胆のう炎、虫垂炎（盲腸）、鼠径ヘルニア（脱腸）や緊急手術（胃潰瘍穿孔による腹膜炎など）でも、状況に応じて腹腔鏡手術を積極的に行っている。

同院は内科や外科を主に、幅広い疾患の診療に定評のある122床の地域密着型病院で、胃・大腸などの消化器疾患、肛門手術、内視鏡治療、整形外科手術などに経験豊富な医師が対応。2次救急指定病院として24時間・365日患者を受け入れ、リハビリ・デイケアにも注力している。同院副理事長で外科医長（医学博

士、消化器外科専門医・指導医）の杉原正大医師（43）Ⅱ写真上Ⅱは外科や消化器外科、内視鏡外科を専門としており、数多くの腹腔鏡手術を執刀。内視鏡検査・治療も得意という。「新型コロナウイルスの影響もあり、

基幹病院では良性疾患でも手術待ちの期間が長くなっている」と聞きます。当院では早期手術、緊急手術にも対応しているため、医療機関の先生方も急な腹痛の方などまずはご紹介頂ければ」と呼び掛けている。